

科目名	特別支援教育特論	担当教員	三田地 真実
科目属性	専門科目 C	単位数	2単位
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b></p> <p>本特講では、障害のある子どもに対する「特別支援教育」のあり方について、単に形式的な体制やしぐみについて学ぶだけではなく、その本質論について深く洞察を図ることを一番の目的とする。この洞察プロセスを通して、特別支援教育の視点が障害のある子どもへの処遇にのみ関わるものではなく、他の様々な多様性を認め、尊重するという共生のあり方への洞察を深める視点の一つとなることを最終的な狙いとしている。また、障害のある子ども、その家族へのアプローチ、長期的なライフキャリアの視点、さらに共生共育の視点も学ぶことで多角的な視点で一つの事象を捉えることも合わせて狙う。</p> <p><b>【授業の到達目標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 障害のある子どもの教育が、かつての「特殊教育」から現行の「特別支援教育」へ変わったことの本質的な意味（教育的ニーズベース）について理解し、各自の現場でそれを踏まえて実践が行える。</li> <li>・ 最新のインクルージョン教育、キャリア教育について、本質的にどのように特別支援教育を変える視点なのかを洞察し、自らの現場に活用する。</li> <li>・ 障害のある子どもにかかわるときには、その家族とどうかかわっていくかが肝要であるという家族システム論、生態学的システム論を踏まえた、「ファミリー中心アプローチ」について学び、実践する。</li> </ul> <p><b>【授業計画】</b></p> <p>本授業は、スクーリング授業 0.5 単位、印刷授業（自学自習） 1.5 単位の合計 2 単位の授業である。評価については、スクーリング評価、レポート評価、科目修得試験を総合しての評価となる。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 特別支援教育体制の概要について（第 1 回～第 3 回相当） <ol style="list-style-type: none"> <li>①障害のある子どもに対する処遇の歴史と特殊教育体制について</li> <li>②特殊教育から特別支援教育に体制が変わった際の特徴的なポイントについて</li> <li>③特別支援教育の本質は、教育的ニーズベースであることを理解する</li> </ol> </li> <li>2. インクルージョン教育（共育）の視点を踏まえた特別支援教育のあり方（第 4 回～第 7 回） <ol style="list-style-type: none"> <li>①インクルージョン教育の世界的な動向について</li> <li>②インクルージョン教育と統合教育との違い、それぞれの利点・欠点について</li> <li>③インクルージョン教育を実践するための具体的な方策について</li> <li>④日本という文化の中で、インクルージョン教育を根付かせるためには何が必要かについての考察</li> <li>⑤本邦で、障害を理由とする差別の解消の推進がどのように進められているのか理解する。</li> </ol> </li> <li>3. キャリア教育の視点を踏まえた特別支援教育のあり方（第 8 回～第 11 回相当） <ol style="list-style-type: none"> <li>①キャリア教育の定義を学び、特別支援教育の中でどのように活かせるのかの視点を培う</li> <li>②学齢別のキャリア教育の段階的アプローチの実際について学ぶ</li> </ol> </li> <li>4. ファミリー中心アプローチの理論を踏まえた特別支援教育のあり方（第 11 回～第 15 回） <ol style="list-style-type: none"> <li>①家族システム論、生態学的システム理論アプローチを基盤においたファミリー中心アプローチの</li> </ol> </li> </ol>			

本質的な哲学の部分について理解する

②ファミリー中心アプローチの視点で子どもにかかわることは、物事を多面的・多角的に捉えることに他ならないことを学び、他の事象にも応用できる

5. 科目修得試験 本科目での学修内容が習得されたかどうかについて確認する。

#### 【評価方法】

#### 【教科書】

- ① リンダ・リアル. (2005). ファミリー中心アプローチの原則とその実際, 学苑社. (ISBN-10: 4761405082)
- ② 文部科学省. (2003). 今後の特別支援教育の在り方について (最終報告).  
[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chousa/shotou/018/toushin/030301.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/018/toushin/030301.htm) (2015/3/19 閲覧)  
※この URL からダウンロードすること (以下、URL のものは同様)
- ③ 文部科学省. (2012). 共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進 (報告). (※以下からダウンロード)  
[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo3/044/houkoku/1321667.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/044/houkoku/1321667.htm) (2015/3/19 閲覧)
- ④ 内閣府. (2015). 障害を理由とする差別の解消の推進に関する基本方針の策定について (通知)  
(※以下の URL の「関連資料」の項目の「本通知」の下にある別紙 1、別紙 2、別添含む)  
<http://www8.cao.go.jp/shougai/suishin/sabekai.html#law> (2015/3/19 閲覧)
- ⑤ 東京都教育委員会. (2008). 平成 20 年度障害のある児童・生徒の自立と社会参加を目指した指導の研究・開発事業(キャリア教育推進委員会)報告書.  
<http://www.kyoiku.metro.tokyo.jp/buka/shidou/20career.htm> (2015/3/19 閲覧)  
※以下の資料 3 点は、学生専用ページからダウンロードすること。
- ⑥ 三田地真実. (2007). 特別支援教育を支える『3つの F』—ファミリー中心 (ファミチャー) 哲学、応用行動分析学 (ABA) の視点によるファンクショナルな (機能的な) 物の見方、ファシリテーター、共生科学研究 (星槎大学紀要), 第 3 巻, pp. 41-56.
- ⑦ 三田地真実. (2010). 学生の特性を活かした“互いの立場を真に理解し合う学びの場”の授業デザイン～ファシリテーションを活用した“ファミリー中心アプローチ”の理解プロセス～, 共生科学研究 (星槎大学紀要), 第 6 巻, pp. 61-78.
- ⑧ 三田地真実. (2012). 『共生』は目の前の人を真に理解することから～ライフヒストリー曼荼羅図を描く・聴くことの意味, 共生科学研究序説, なでしこ出版, pp. 101-121.

#### 【参考図書】

- ① (独) 国立特別支援教育研究所. (2011). 特別支援教育充実のためのキャリア教育ガイドブック, ジアーズ教育新社. ISBN-10: 4863711476
- ② レイチェル・ジャネイ&マーサ・E・スネル. (2011). 子どものソーシャルスキルとピアサポート: 教師のためのインクルージョン・ガイドブック, 金剛出版. ISBN-10: 477241181X
- ③ 渡部昭男. (2012). 日本型インクルーシブ教育システムへの道, 三学出版. ISBN-10: 4903520706
- ④ ミミ・ハイネマン他. (2014) 子育ての問題を PBS で解決しよう! ポジティブな行動支援で親も子どももハッピーライフ, 金剛出版. ISBN-10: 4772413545
- ⑤ Scarpaci, R. T. (2006) A Case Study Approach to Classroom Management. Pearson Education, Inc. ISBN-10: 0205392253

⑥ Lucyshyn J. M., Dunlap, G., & Albin, R. W. (2002) Families and Positive Behavior Support. Paul H. Brookes Publishing Co. ISBN-10: 1557665745